

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 0972400261 | | |
| 法人名 | 医療法人 翼望会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ひかり | | |
| 所在地 | 栃木県佐野市葛生東1丁目15番9号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年9月12日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年12月20日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人 栃木県社会福祉士会 | | |
| 所在地 | 宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内) | | |
| 訪問調査日 | 平成28年10月5日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が入居者様の笑顔が増やせるよう、家事仕事や趣味、外出など御本人の気持ちに寄り添う努力をしている。また、それぞれの力や個性、性格にも配慮しながらその人らしく暮らせるよう支援している。法人内には診療所や歯科、老健もあり医療連携を取りやすい環境にある。隣接する兄弟グループの訪問看護ステーションとの契約により24時間体制で連絡・対応できる環境にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの理念について職員全員で共有できており、「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」というコンセプトを大事にしながら実践に繋がっている。事業所の運営についても職員一人ひとりがしっかりと意見を言える機会があり、運営に繋がっている。法人内での医療環境が整っており、受診対応や医療体制での連携が図れており、安心した医療を受けることができる。地域との交流は、近所のカフェに出かけたり、地区のお祭りに参加したり、また普段の散歩中でも住民が声を掛けてくれたりと交流が盛んである。一人ひとりの生活リズムを把握しながら、自宅での生活とのギャップがないようにしており、入浴は夕方から入れるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 運営方針(理念)を掲げ、申し送りの時やカンファレンスの時に入居者の方々への具体的な対応等話し合っている。 | 「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」という理念を職員一人ひとりが理解し、利用者の自立支援を念頭に支援している。利用者の支援で迷ったときは申し送りや会議で話し合い、理念に添った支援ができていないか確認している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的に買い物や散歩、地域の行事等に出掛け交流されている。近所の方から花や野菜を頂いたり、犬を飼っている方が定期的に訪問している。地域の保育園との交流もある。 | 地区の保育園の運動会に参加し、子供達と一緒に玉入れ競技をする等の交流がある。また、地域のフラダンス会が踊りを披露したり、犬を連れて遊びに来るなど、地域の交流が盛んに行われている。お祭りの山車を見に、毎年参加している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 外出や行事にて、入居者の方々と職員との関わりを、地域の方々が知る機会となっている。また、広報紙を年4回発行し、地域の回覧を通し理解に努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 委員の方々には、ホームでの取り組みやサービスの評価について説明し、意見を出して頂いている。消防訓練の法人内での連携について再確認ができたり、会議での意見がサービスの向上につながっている。 | 消防署を招いての運営推進会議を設けるなど、防災意識を強化した会議などを行うことがある。また、事業所で起きたヒヤリハットについても会議で報告し、メンバー間で共通認識、改善点を発見できるように会議を進めている。外出支援や行事報告では実際に外出時の写真を添えて報告している。 | ボランティア等の地域のメンバーの参加を募り、更なる建設的な会議になるように期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 事故発生時の報告書提出や、法令・加算等に関する助言等頂き、サービスの質の向上に努めている。 | 役所から事業所で看取りが実行できるようにアドバイスもらったことがある。また、日頃から事業所の報告とともに利用者の対応について相談、連絡をし、いつでも連携が取れるようにしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止委員会を設けている。身体拘束において禁止の対象となる具体的な行為等、勉強会を通し理解を深めるようにしている。玄関の施錠についても検討し、可能な範囲で鍵を開けておくようにしている。 | 会議や勉強会の中で身体拘束について話し合う機会を設けている。また、安全と拘束の誤認識がないように事例を用いながら身体拘束の正しい理解を共有している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止についての勉強会を実施し、虐待防止に努めている。研修資料等、職員が手に取りやすい場所に置いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業、成年後見制度について勉強会を行ったり、研修に参加し、理解に努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時や退去時に十分説明をし、納得頂けるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 自由に思いを話せるよう環境を整え、また、情報も頂けるよう努めている。要望や不安も話しやすいよう機会を設けている。 | 利用者からは日常生活の中で意向が聞かれ、家族からは面会時に意向が聞かれることがある。事業所で納涼祭を実行する際に、企画等の意見を取り入れて、効果的に進めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 会議や申し送り、日常の会話の中から提案や意見を聞き、話し合い、どのように反映させていくか検討している。 | 利用者の生活を第一に考え、利用者のためになると思うことはその都度、職員間で意見交換ができる環境となっている。利用者の事故や怪我に繋がらぬことは、未然に防ぐように些細なことでも会議で話すようにして、事故防止に努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人で就業規則等の改定を行い、給与規定等見直しを行った。研修の機会を設けたり、残業に対する独自の規定の作成、環境整備に努め、働きやすい職場を心掛けている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修計画をたて、法人内外における研修の機会を設けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 外部研修の参加の機会を設けたり、内部研修にも、他法人の職員の参加もあり、交流する機会がある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人とゆっくりと話す時間を設け、思いを汲み取るよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 直接話せる機会を設け、思いを引き出せるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 御本人の状態を聞き、情報の提供をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 趣味、特技、裁縫、歌、家事仕事等を一緒にに行いながら、教えて頂いたり、相談し合ったり、喜怒哀楽の共有に努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時等を活かし、御家族と話す機会を設け、本人の状況や希望を伝え、一緒に支えていけるよう働きかけている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 御家族や本人から情報を聞き出掛けたり、可能であれば知人が訪問出来るよう、家族に声掛けしている。また来て下さった方にはまた来て下さるよう伝えている。 | 事業所に知人や友人が訪問することが多く、本人と談笑をして関係継続の支援に努めている。外出するときも馴染みのお店や利用者が使い慣れた道を通して支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気の合う方と同じテーブルになってもらったり、他の方とのコミュニケーションの間に入る等して関わりを持てるようにしている。また生活の場面でできないことを手助けしていることも、度々見受けられる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後利用の施設や病院を訪ね、御家族や本人とコミュニケーションをとっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々のコミュニケーションの中で意向の把握に努め、記録等を通し情報の共有を図っている。困難な場合は、職員で意見を出し合い、生活歴や原因等様々な視点から探り支援をしている。 | 普段の生活の中で出る意見に耳を傾け、希望が叶えられるように職員間で話し合いをして実行している。自己主張が少ない方等は家族の聞き取り等の協力を得て、個別対応できるように努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 面会時等で御家族と話す機会を作り、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々、一人一人の言動や中核症状の影響を大切にしながら、記録に残し把握するよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 御家族から生活歴や意向の聴取、居宅ケアマネ等関係職員からの情報収集や意見を出し合い介護計画を作成している。また、次の介護につながる記録の書き方に努めている。 | 職員を居室担当に振り分け、ケアチェック表を定期的に把握して介護計画に役立てている。変化が見られたときは職員間で話し合いをもち、家族等に報告し、実践に繋がるように取り組んでいる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々、次の介護につながる記録を心掛けている。また、情報の共有が図れるように申し送りノートを活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 同法人の理学療法士や作業療法士に必要時は本人に合った車椅子やシューズの相談をしている。訪問看護の看護師の週2回の訪問の他、24時間相談可能な体制になっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 行事等で知人のいるボランティアの方に来て頂き一緒に歌や踊りを行なっている。中学・高校生の実習、ボランティアもあり交流を楽しまれている。近隣の犬を飼われている方が定期的に訪問されている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 状態に応じ、家族の意向も踏まえながら受診している。外部機関との関わりの際は、必要時は手紙を通しかかりつけ医に現状の理解をして頂いている。 | 医療体制は、希望によりかかりつけ医の継続ができる。また、家族の受診対応が難しい場合は職員がかわりに対応することもできる。協力医の往診と訪問看護の訪問が定期的であり、利用者も安心して過ごすことができる。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護との契約により週2回看護師が訪問しており相談できている。24時間体制で何かあれば受診へつなげられる体制にもなっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は書面にて情報提供し、その後は随時入院先への訪問や電話での連絡を取り合い、病院関係者との関係作りにも努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 「重度化した場合における対応の指針」「看取りに対する同意書」を入居時に確認している。必要時は書面を作成し、状態に応じ家族や主治医と相談し、今後の状況を踏まえ支援の方針を定めている。 | 看取りの事例はないが看取りを希望される利用者には、事前に医師や看護師と連携をして出来る限りの支援を行っている。重度化の支援は、緊急時のマニュアルや医療従事者に繋げる手段が図れている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 一般的なマニュアルがあり、消防署または法人内で救命救急の講習を職員が受講している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、通報訓練、消化訓練、避難訓練を行っている。非常通報装置が発動した時に地域の民生委員の方へも自動で連絡が行く体制になっており、地域との協力体制を築いている。備蓄の管理にも努めている。 | グループホーム内での避難訓練を消防署の立会いのもと行っている。全職員が統一した行動がとれるように交代で訓練に参加している。夜間想定訓練や地震等の災害想定訓練も行っている。備蓄の管理も定期的に見直している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 本人の気持ちを大切にし意思確認を行いながらの対応に努めている。本人の理解度や状況に応じた言葉遣い、自己決定しやすい声掛けに努めている。 | 日中は利用者との会話を多くもつように心がけている。会話では、具体的で分かりやすい表現を使って、本人の意思を引き出すように努めている。また、同姓介助を基本として支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | コミュニケーションを多くとり、職員が断定した話し方をせず、問いかけるように希望を引き出せるような声掛けに努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床や入浴、食事の時間は可能な限り個人のペースで生活できるよう努めている。またコミュニケーションを通し希望の把握に努めている。業務は極力入居者の方々に感じさせず生活出来るよう配慮している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 好みや着たい洋服等、その都度選んで頂き希望に沿えるよう努めている。自分で化粧される方、希望者には職員がお手伝いさせて頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 1人1人の好みの把握に努めている。一緒に食事準備を行い、談笑しながら食事をとっている。また、畑の野菜を収穫し、好みの調理を一緒に行っている。好みに応じメニュー変更もしている。 | 事業所の畑で収穫した野菜や、バイキングメニューを企画する等、食に興味を持って貰えるように支援している。また、利用者が調理や片づけ等、個人の能力に合わせた支援に努めている。隣接する施設の管理栄養士からもアドバイスを得て、栄養のバランスを考えた食事提供も心がけている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士からの参考資料を元にメニューを作成している。月1回の主治医の往診時に状態に応じて塩分制限等食事バランスの確認をしている。水分摂取が少ない方には食事時以外にも随時摂取して頂いている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 入居者の状態に合わせ、基本的に毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、困難な方には状況に合わせ職員が「支援するようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-----------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄チェック表を活用し、個人の排泄パターンを把握しながら、本人に合わせた排泄を心掛けている。医療的な指示、身体的負担を考慮した入居者を除き安易にオムツにせず、日中はトイレ介助を心掛けている。 | 利用者の意思を確認しながらトイレの排泄支援を行っている。夜間、トイレ移動に転倒の危険性が高い人には、ベットの脇に簡易トイレを設置し、安心・安全に排泄が出来る様に支援している。身体状況によってトイレが難しくなった場合は、オムツへの切り替えが必要なのか家族へ相談したり、職員間で話し合いをして支援変更の検討を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事に繊維質の多いものを取り入れるようにしている。散歩や体操で身体を動かす機会を設けており、水分補給にも心掛けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 御家族等から情報を頂き、1人1人に合わせ、本人のペースで入浴して頂けるよう努めている。入居者同士が満足して入浴できるよう努めている。 | 事業所では利用者の希望する夜間に合わせた入浴の支援をしている。また、入浴を楽しめるように入浴剤を使ったり、ゆず湯にして気分を変えて支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 疲れたら休むよう声掛けし、個人の希望で眠れるように支援している。また、1人1人安眠できるよう環境整備にも努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬が新しく処方になった時や変更になった時は、内容をノートに記録し、また薬の詳細が記載された用紙をファイルに綴じ職員が把握できるようにしている。入居者の変化等記録に残し、主治医へ伝えるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人、家族や関係機関から情報収集し、家事仕事、畑仕事、買い物等の役割や楽しみ事が持てるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 入居者のお勧めの花見の場所に御家族と出かけた方や、化粧品の買い物や知人に会いに行くなどもしている。御家族からの情報を外出行事に取り入れたりしている。また、保育園の行事へのお誘いも頂き参加させて頂いている。 | 利用者個人の趣味や楽しみを活かしながら、外出支援に繋げている。洋裁道具や化粧品を近くのお店に買いに行ったり、近所のカフェや道の駅に遊びに出かけたりと本人の希望や願いを可能な限り支援している。また、那須の牧場やフラワーパーク等、長距離の外出も支援している。 | さらに利用者の希望する、個別での外出支援を期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人や家族と相談し、希望により個人でお金を管理しており、外出時使えるようにしている。自己管理が困難な方は、職員で預かり、可能な範囲で購入したい物が買えるよう努めている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 御家族にも確認しながら、本人の希望時電話が掛けられるよう支援している。自ら電話を掛けている方もいる。手紙のやりとりをしている方は現在居ないが希望があれば検討したい。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 近所の方々や職員が持ってきた季節の花々を飾ったり、トイレの表示をわかりやすくしたり、居室の表札や目印を置く。時計やカレンダーは、目に付きやすく混乱等ないように配慮に努めている。 | リビングは大変広く、木造の造りとなっている。リビングの季節の飾りつけを入居者と一緒に作成し、展示して季節感を演出している。畳スペースには堀こたつもあり、足を伸ばして寛げる場となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 東・西ホール、畳コーナーと別れており、希望を聞きながら思い思いに過ごせるよう配慮している。窓際で一人で過ごしたい時はそのように、また気の合う人同士で座れたりできるよう配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人や御家族と相談し、可能な範囲で家具や写真等持って来られている。 | 自宅での馴染みのものを持参してもらい、落ち着いた環境を心掛けている。衣装ケースや使い慣れた椅子、思い出の写真などが多く持ち込まれている。転倒等に繋がりがやすい家具や配置は事前に説明をして、未然に怪我等を防ぐように努めている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホーム内全てバリアフリーとなっている。トイレの場所は分かりやすく表示し、希望者には居室に表札をつけている。転倒のリスクのある方の室内は家具類の配置に配慮し安心かつ出来る力を活かしやすいよう努めている。 | | |